

大規模増殖場開発事業調査

——風間浦地区——

(要 約)

三木 文興・足助 光久・沢田 満・三戸 芳典
佐藤 敦・仲村 俊毅・小田切明久・宝多 森夫

コンブ、ウニを対象とした大規模増殖場開発事業は、今別、石持、大間の3地区においてそれぞれ昭和50年、52年、53年度から行なわれているが、本年度から下北半島津軽海峡沿岸の風間浦地区(風間浦村および大畑町木野部)においてエゾアワビを対象とした調査を実施することになった。

本事業の構想は、地区内の漁場特性に応じた大規模な漁場造成により、エゾアワビを主体とした磯根資源の増大をねらいとしている。

この地区の磯根漁場は、潮間帯における天然アワビ稚貝の分布、アワビの成長や漁獲高、餌料海藻、特にコンブの分布と漁獲高などの状況から4タイプに区分されるようであり、それぞれの漁場特性によって、稚貝生産主体、餌料海藻主体あるいは両者の組合せ方式などの漁場造成が予想される。

調査期間は昭和52年～53年度の2年間となっているが、本年度は主として水温、波浪観測、生物および底質(地区の約2分の1の区域)などの漁場環境調査、エゾアワビの産卵期および成長、浮游幼生の出現状況、幼稚貝の分布状況などの生態調査を行なうとともに、モデル施設を設置し、施設の安定性や生物の付着状況について調査を実施した。

本年度の調査により、いくつかの知見が得られたが、調査結果については、次年度の調査結果と併せて一括報告したい。